

はじめに

2001年6月に発表された「遠山プラン」は、国立大学の再編・統合を進め、スクラップ・アンド・ビルドで活性化を図る、国立大学を新しい「国立大学法人」へ早期移行する、第三者評価システムを導入して、国公私を通じた競争的資金を拡充し、国公私「トップ30」を世界最高水準に育成する、としていた。これを受けて、各国立大学では再編・統合の論議が進められるようになり、同年11月文部科学省高等教育局「国立大学の再編・統合についての基本的考え方(案)」、および同月22日国立の教員養成系大学・学部の在り方に関する懇談会報告書「今後の国立の教員養成系大学・学部の在り方について」(以下、在り方懇報告)は、その傾向をより加速させる役割を果たしている。

在り方懇報告は、一県一教員養成系大学・学部の原則を放棄し、教員養成担当大学と一般大学に再編・統合し、教員養成担当大学には原則として教員養成課程のみを置き、一般大学には教養教育を担当する組織や地域の求める人材を養成する組織等を設置するとしている。同報告は、教員養成系大学・学部の在り方を問題にしているため、教育学部関係(非教員養成系の教育学部を含む)以外の教員の中には、自分たちの学部・大学には関係がないと思ったり、教員養成の「開放制」の意義について理解を示さない向きがある。確かに同報告は、教員養成系大学・学部の問題に限定して論じているが、教員養成の開放制を堅持するとしており、一般大学に対しては言外に、その教員養成をどうするのか、止めるのか、維持し改善するのか、を問うているとみるべきであろう。

また在り方懇報告は、非教員養成大学・学部の附属学校については、「実験的、先導的な教育課題への対応等、国立の附属学校として取り組むことが必要で、当該大学として教育研究上真に必要なとされる場合は、存続させることが適当であるが」、それ以外の場合は、「段階的に地方移管や廃止等の方向で検討することが適当である」としている。本学部の附属学校は、この非教員養成学部の附属学校であるので、その存続が問題になる。学部・研究科の教育研究において、これまでも重要な位置を占めてきているが、より組織的制度的な関係が問われることになる。本学部附属学校は、2000年度から数少ない国立大学附属学校における併設型の中高一貫校として発足したが、そのモデルとしての役割が期待されている(ちなみに、東京大学教育学部附属学校および奈良女子大学文学部附属学校は、同年度中高一貫の中等教育学校として発足しているが、いずれの学部も非教員養成学部である)。非教員養成の一般大学である名古屋大学が今後も教員養成を維持するとしたら、本学部附属学校は、その教員養成とどう関わるかがまず問われると考えるべきであろう。このことは、教員養成学部の附属学校とは別の観点からの検討になるであろう。これまでも本学部附属学校は、本学の教育実習の一部を引き受けてき

ているが（全部は物理的に不可能であるため）、それ以外に教育実習の事前・事後指導において、同校教官が大きな役割を果たしており、教職科目における各教科の指導法、道徳の指導法、特別活動の指導法を同校教官の多くが担当している。本学が教員養成を維持する場合は、当然附属学校および同校教官の以上の役割は今後とも不可欠であろう。附属学校の必要性については、以上のことを等閑視すべきではない。

他方、2002年3月26日国立大学等の独立行政法人化に関する調査検討会議は、最終報告「新しい『国立大学法人』像について」を発表した。報告は、高等教育・学術研究に係るグランドデザイン・政策目標は国が定め、長期目標はこれを踏まえて大学が定めるが、中期目標は、大学が提出した原案を尊重して文部科学大臣が定め、中期計画は大学が作成し、文部科学大臣が認可するとしている。大学運営については、学長・学部長を中心とした体制とし、学外者が参画する運営組織にする。評価については、外部評価を含む何重もの評価を行い、予算配分は、その評価に連動する。職員の身分については、「非公務員型」とするとしている。報告が実現することになれば、大学は財界の下請け機関となり、学問の自由、大学の自治は侵害される恐れがあるといわざるをえない。

さて、本11号の最初の論文執筆者志茂野千香子は、2000年度静岡県教育委員会派遣の教員研究生である。これまでは、5年ごとに教員研究生の報告をまとめて冊子にしてきたが、大学院重点化に伴い、予算配分方法が変わってきたこともあって、そのように冊子にするのは止めて、本『教育行政研究』に収めることにした。杉山和恵は、本研究科博士課程後期課程2年である（2002年3月現在）。井深雄二名古屋工業大学助教授（本研究室出身、1980年3月博士課程単位等認定）の論文は、現在教育基本法改正が問題となっている折から、執筆してもらったものである。

（榊 達雄）